

令和1年6月29日 宮下町長との面談（竹村工業本社）

〔不正の事実を情報公開の資料を元に説明する。〕

竹村：それと、漏れてるということ。漏れてるつつうのが、もう決定的に漏らしちゃ駄目だから。この前、どう?滋賀県だかどっかの、ことしになってから捕まってるよね。エアコンのことよ。小中学校のエアコンの工事で、業者に数字を漏らしたちゅうって、何とか何とか部長ちゅうのが逮捕されてる。

宮下町長：はい。

竹村：これ、（情報公開の内容での）状況見たらどう考えたって、漏れなきゃこんなの分かるわけない、これ。

宮下町長：今、自分が何を悩んどるかっていうのが、これをじゃあ役場に持ってって相談したら意味がないと思うんですよ。

竹村：相談じゃなくて、

宮下町長：相談というか、この【？】しても。

竹村：だから、私たちが今、きょう相談というか、（宮下町長:はい）町長の判断を聞きたいのは、今これからどうこうちゅうって動くのは、これは町長が動いてもらうのが、俺らは町コンの後で良いと思ってるわけ。町コンのときに、ちゃんとこれを、俺たちの（話）を聞いて、当然 10 日前に出るから、（宮下町長：はい）それに対して宮下町政としては、これはもうチェックすると、こういうのはどう考えてもおかしいからと、そういう姿勢で臨みますちゅう、そういうふうに言ってもらえるかどうか。それとも、こういうやつもあるじゃないかっていうか、そのことですよ。

宮下町長：第三者の目が入らないと、役場でいくらこの検証しても意味がないような気がするんです。どこから漏れてるか分からない以上。漏れてるとしたらです。

竹村：それは、どこから漏れとるかどうかつちゅうことは、警察が調べる。だから、警察に町長が持ち込むかどうかという、そういうことですよ。

西尾：要するに、告発するかどうかですよ、要するに。被害を被ったのは町だから。

宮下町長：そうですね。

竹村：これもし、談合で成立したら、金みんな戻ってきますよ。

宮下町長：これ、でも被告は誰になるんですかね。

竹村：被告は、こういう犯罪における被告は誰かって分からんから、警察が調べるんですよ。

宮下町長：それは自分の考えることじゃないですね。

松本：そこに行けるかどうか。

竹村：それはもう、警察に持ち込んで、調べてくださいと。そうしたら警察が、町でこういうことを調べなさいとか、これはもう受け取りませんとかっちゅうのは、それはあくまでも警察や検察の判断ですよ。だから、宮下町政としては、その先を読むんじゃなくて、これについてどういう判断をして、これはおかしいから明らかにしなきゃいけないと。（宮下町長：はい）それで警察のほうへ持ち込んで調べてくれと言うのか。よく分からんからどうこうだって言ってそのままにするのかっていう、まあそういうことですよ。

西尾：町でやらないって言ったら、誰か別の人がやらなきゃしょうがないですよ。

宮下町長：まあ、そうですね。

竹村：それは議会がやったり、役場がやらないかんのですよ、本当はこんなのは。（宮下町長：そうですね）って、私たち思いますけど。

宮下町長：タイミングとしては、今はやれるときなので。うーん。

竹村：これ、役場の中で、何とか委員会を立ち上げるとかっちゅう話じゃないから。（宮下町長：うん、うん、うん）もう明らかに、これ談合罪、談合罪じゃない、不正競争、何だったかな。入札妨害罪、何かあるわけ。もうそのまま持って行って、こういう指摘が町民からあったと。だからどうしたらいいかって、そのまま警察に持ち込むのが一番簡単ですよ。そうしたら警察がやることだから。取り上げるか取り上げんか。それは警察が取り上げる、（宮下町長：うん、うん、うん・・・）取り上げんっちゅう、少なくともそれは最終的には警察、検察の判断、（宮下町長：そうですね）検察の判断だから。だから、私たちとしては、町長が宮下町政はこういうのに対してちゃんとした対応を取るかどうかっちゅうのが、私たちは見てるところですよ。

西尾：検察が、これで問題ないって言ったら、今までどおり神建がやりゃあいい。（宮下町長：うん、うん）一発で99.9%で落札し続けりゃあいい。（宮下町長：うん、うん）そういうこと。それを司法が認めたっちゅうことになる。だけど、そういうふうにはならんだろうと思ってるから、我々は。

宮下町長：うん、うん、うん。

竹村：なるわけないよ。こんなばかなことがあったらさ、警察なめんなっちゅう話になるよ。だから、町で何かを対策を立てるっちゅうよりも、町長が、これはおかしいから調べると。これはどうしても、これは警察だからって警察のほうへ行くっちゅうことだとしたら、私たちはそれで宮下町政へはきちんとしとると。そうしたら業者も、こんなでたらめなことはやらんくなってくる。

宮下町長： そう、そうですね。

竹村： これじゃやり放題よ。

西尾： 経済犯罪ですかね、これ。明確な。

宮下町長： うですね。

竹村： それも明らかに、こんなでたらめな金額で受け取ること自体だってあり得ない。

松本： その、ちょうど今、今が良い時期だっていうのは何か理由があるんですか。

宮下町長： 首が変わったところなので、（松本：そうですね）検証するタイミングなんですよ、全てのことを。

松本： 南信州でしたっけ、記事に載ってましたよね。新人が現職に立つには問題があるっていうふうに言われてるわけだから、（宮下町長：そうですね）本当、良いチャンスだと思うんですよ。

宮下町長： 散々、松井さんに叩かれましたけど。

松本： 本当、でもそういうことをしたことによって、町民らはもっと気持ちがそっちに行くと思うから。

宮下町長： はい。

竹村： 私たちはね、これもう行われてるから、終わっちゃってるやつだから、ここであした警察でどうこう、そんなこと考えてるわけじゃない。これをうまく利用して、町長がきちんと。（宮下町長：そうですね）で、俺たちが町コンのところであまくやり取りをして、分かりやすく、前はこんなことあったんだけど、こうなって、宮下町長は違ふと。で、きちんと答える中で、ここでオープンにして、なおかつこういう町コンも、こういうふうオープンにしてっていうことの中で、変わったぞと。ふうなことができれば良いのかなと。

宮下町長： はい。

西尾： 特に我々は、宮下新町長にとってもすばらしい町政をやってくれって全然思っていないんですよ。要するに、普通の町政、ここの近所、並みの町政やってもらえればいいだけなんです。なぜかしたら、今までがでたらめだったと思ってるから。今までが 25 点だとしたら、もう 50～60 点でいいんですよ。そこがボーダーラインだとしたら。何も 80 点も 90 点も取る町政をやってくれなんて、これっぽっちも思っていない、現段階では。

宮下町長： もし、それを始めようとしたら、恐らく自分の手柄を立てることに走っておかしくなるのは目に見えて、

西尾：だから、ごく普通の町政やってもらいたい（宮下町長：そうですね）と思って応援したんです、みんな。だから、そこのところは、これだっごく当たり前のことですよ、（宮下町長：はい）これを追求するっていうか、告発するなんていうことは。だから、それがやらなかったら、結局若返らったって。前と同じじゃないかと。

竹村：それじゃ、深津さんと一緒になっちゃう。

西尾：というか、あるいは分かってもやっただけ、まだ深津より悪いって言われちゃう。

宮下町長：何かメリットあったんですかね。

竹村：そこは警察が調べるんじゃない。それは警察が調べる。そこはもう、警察の話じゃん。これ、そういう面じゃね、いいんだに、警察に持ち込めばいいんだもん、（宮下町長：うん）それで。これで役場がうんと手間が取られるわけじゃない。役場は資料を出しやいいわけだから。だけど、これはいくらなんでもね、これは駄目だ、こんなの本当。何やっただっていいっちゅう話になっちゃうね、これ。堂々と、何が悪いんだって。どうせ見つかっちゃせんわっちゅう。まあ、それが実は出てきたと。

それと、町長。やっぱりこれは、（情報公開を）出した係長がおるわけ。西浦さんが出したんだ。ここ（意見広告7）に書いてあるとおり。これ、意見広告のさ、7のこの神稲の事務所のこのけつ（最後）に、このときに田中課長が西浦さんと呼んで、こう言っとるけど、飯田市こうだけど（開会されているけど）どうなんだっていったときに、西浦さんが出せるっていったから表に出たわけ。（宮下町長：はい）けど、西浦さんだってそれなりの覚悟で出しとると思うの。やっぱり、きっとこれでは（非公開では）駄目だと思ってるんじゃないかと思う、俺は。

宮下町長：お願いしてあるのは、ちょっとまだ条例が間に合っていないんで、公開したいんです、全部。（公開することは）普通なんで、それは。

竹村：だからこれをさ、やっぱり町の役場の職員だっただけだと思ってる人がいるんな、きっと。こういう入札が行われること自体。それを今度、当たり前だと思っただけで、本当駄目になっちゃうから。まあ、5月の31日に情報会求めなければ、私たちはこんなの、俺らは手に入んなかったから、こんな話にならなかつたんだけど、残念ながら高坂教育長と宮下町長が床置きにするって言わずに、それこそ中学が天吊りで延長するって言ったから、私はこれは危ないなということで、実はこれ情報公会求めたわけ。（宮下町長：はい）そしたら6月の2日、床置きになるっちゅうことだったから、まあ良かったなと思ったけど、そうしたらまた違くなって、これは実は6月の13日に出てきたっていう皮肉な資料なんだけれど。その代わり、これをきちんとすることによって、宮下町長が、

松本：町長のお話もちょうと聞いたほうがいいんじゃないですか。やるかやらないか。まずそこをしないでいかないと。

竹村：どうします。

宮下町長： やりたい、 やりたい、 やりたいです。

松本： やりますか。 やりたいじゃなくて。「たい」ということは、何かがあると変わる可能性がありますけど。

宮下町長： うーん

宮下町長： これをやることで、自分は何も困らないんですけど。 そうなんです、 だから。

松本： 何も困らなく、 メリットが。

西尾： やらないと困るのは町民ですよ。

竹村： やらないと、 だけど町長、 困りますよ。 俺たちに言われるから。

宮下町長： 全然、 守る義理もないんで。

松本： じゃあいきますか。

宮下町長： やってみますか。

西尾： やってもらいたいですね。

竹村： 深津さんの荒探しをしたっていうふうに、 町長が、 それは俺らが言うんだから。 いい？ 今動き出しちゃうとおかしいから、 俺たちが町コンで言った、 それで動きなよ。 それはそういうセンスでしなきゃ。

宮下町長： 今動き出すと変ですね。

竹村： だし、 1カ月ちよい先の中で、 これからは本当、 そこは上手にしないと。 俺たちが指摘してるわけじゃん。 前から言ってんだから。 住民監査請求どうのこうの、 この入札のこと出てきて、 それで今回の町コンでこれをどうするんだっていう質問状が出たと。 それに対して、 町長が答えると。 それでいいもんで。 やるっちゃうって一言言えば、 それでいいの。

宮沢朋文： それで株が上がる。

宮下町長： 株はまあいいですけど。

竹村： だけどやらんと、 あれをやらんとさ、 さっきニシオが言った25点マイナス25点で、 0点になっちゃうよ。 これ、 やっぱりやらんと駄目だって。

西尾： 普通の町政を望んでるだけ。 すばらしい町政・・・。

竹村：こんな悪いこと、見逃しちゃ駄目だって。

西尾：すばらしい町政は、3年目とか4年目にそういうふうな課題が出てくるんであって、今はとりあえず25点ぐらいだった深津町政のレベルを、もう25点かさ上げするんだ。これは当たり前のことだよ、これ告発するなんていうことは。

松本：町長、きょう何時までですか。

宮下町長：まだ、特にきょうの後は。

竹村：・・・さん、どうですか。

〔このあと、同席した宮下町長の支援者の方が、宮下町長に意見を述べた。その後、エアコン設置工事の床置きについて話をした。〕

竹村：町長、前段のことはどうします。はっきり、もう一回何か言ってくれる?

宮下町長：警察に。

竹村：警察じゃない、やると。(不正を正す)

宮下町長：やりたいです、やります。

竹村：(メンバー6名に対して) それじゃいいな、そういうことで。それじゃ、そういうことで私たちはストーリーを作りますので、シナリオも作りますので、さっきも言ったように私たちが26日に質問書を出す前には、一切このことは忘れとってもらったほうが良いって思う。そうしといたほうが、町長がやりやすいと思うから。やっぱり、前の人(深津前町長)つつくちゅうこと自体は、感情的に、田舎の人は特に、(もう辞めたんだから、) そんなことまでやらんたって、という人もおるから、それは俺らに言われて(指摘されて)みたら、さすがにこれは駄目だろっちゅうような話の中で、調べなければしょうがないちゅうような雰囲気を作ってってやったほうが町長はやりやすいと思う。その代わりに、これをやらなんたら、これOKにしてしまったらずぶずぶになっちゃうからね。あんまり深く話するのが良いかどうか、それは町長が考えてもらって、26日までは一切忘れてもらってっていうことで。それじゃ、いいかな、そんなことで。それじゃどうも。

宮下町長：ありがとうございました。

(了)